

大手ゼネコン一次専門業者として実績と信頼を誇る 渥美建設株式会社

鳶、重機オペレータ、建設作業員を関西一円の建設現場へ派遣する渥美建設株式会社。1950年の創業から64年もの長きに渡り、豊富な経験と実績を重ねてきた。建築現場の作業員という日雇いで確保するイメージがあるが、同社では約150名を全員雇用し、人材教育に力を入れている。日々の徹底した人材教育によって長年培った技術を継承する”プロ集団”として認められ、大手ゼネコン一次専門業者として関西一円のビッグプロジェクトを支えている。



社員が食堂に集まって和やかに集う忘年会

直接雇用にこだわり人材教育を重視

建築作業員を自社での直接雇用にこだわるのは、ただ単に人を派遣するのではなく、“安全”とどんな仕事でも手を抜かず、当たり前



施工実績「大阪コミュニケーションアート専門学校」



大規模マンションの施工実績「ミリカ・ヒルズ」

の事をきっちりとやり続ける“人材の育成”のための。

毎朝現場へ直行することはなく、全員が会社集まり、必ず作業開始前の打ち合わせをしてから送り出しを行っている。20名の職長をリーダーに、現場の規模に合わせて5人～20人1組がチームとなって各現場へ向かい、作業後も会社に戻ってくる。確実な技術の継承はもちろん、自社で設けた10項目の安全基準を満たすためだ。

三代目の渥美光仁代表取締役は「現場へ行く前と後に会社集まることは手間のかかることですが、確実に予習、復習ができる場です。人間関係においてもコミュニケーションが深まるので、現場での効率もあがります。この仕事は定着率が低いといわれますが、それは細かなサインを見逃しているからではないかと思えます。職長は全員のことをよく見ていて、技術的なことはもちろんですが、何か心配事があるのかなど仕事にも影響する心の内側までも気を配っています。私も出張などが無い限りできるだけ毎日送り出しで全員を見ているので、それぞれの社員の調子の良さ悪しや、いつもと何かが違うとすぐわかるようになりました。そんな時はさりげなく話を聞くようにしています。些細なことかもしれませんがとても大切なことと思っています」と話してくれた。

社員寮も完備し、現在100名くらいが利用している。「よりよい環境を提供したい」と食堂も備え、従業員の健康管理も行っている。大きな家族のようなアットホームな雰囲気は、長年勤務している従業員がたくさんいるというもうなずける。社長が子どもの頃から知っている職人が現在も働いているようだ。

機動力と技術力の高さ 最新重機の積極導入でニーズに対応

同社が信頼を築いてきた理由のひとつに150名もの人材を動かせる機動力がある。例えば、突貫工事が必要な場合でも、1つの現場に100名以上を投入できる上に、ダンプ18台、ユンボ23台など大型重機を多数所有しているため、重機をリースするための手続きに時間を掛けずに現場へ持っていくことができるのだ。



ダンプ18台、ユンボ23台を所有。重機オペレーターも15名スタンバイ

鳶・土木工事のすべてのニーズに対応できるため、

大手ゼネコン一次専門業者として活躍している。関西一円の大型マンション建設や大規模工場、社屋の建設など、大規模な土木工事に携わることが多いため、現場で働く鳶、重機オペレータ、建設作業員達にとって、建物が完成した時の達成感は大い。「立派な建物が完成すると誇らしい気持ちになりますし、『あの建物を自分たちで作った』という充実感はこの仕事ならではののではないのでしょうか。」と渥美社長。

職人への尊敬の念を大切に 対話とお互いの成長を目指す

社長は大学卒業後、2年ほど千葉にある建設業の人材派遣会社の立ち上げに携わった。「子どもの頃から自宅の近くに飯場があり、職人さん達がまかないを食べていたので環境には慣れていましたが、実際に仕事として直接話をする機会は初めてでした。職人さんたちひとり一人と対話をしてお互

いに成長する大切さを実感できたので、この2年間は貴重な経験ができたと思います。大学では建築について学んだわけではないので、建設業としてのノウハウや専門知識は自分で勉強し、わからないところは職人さんに直接聞きながら身につけてきました。この業界に入って10年経ち、今ではほとんどのことがわかるようになりましたが、自分が職人として現場で作業をすべてできるわけではありません。すべてできないからこそよかったと思えるのは、職人さんへの尊敬の念を忘れずにいられることです。職人さんを尊敬しているからこそ、現場から帰ってきたら心から『おつかれさまです』と言えるように思います。」

千葉での2年を終えて同社に入社し、2005年には25歳にして代表取締役役に就任した。「父である光海元代表取締役はあーしろ、こーしろとは全く言わなかったですね。俺を見とけという感じで、私が代表取締役に就任してからはどこでも行ってこいという風でした。お取引先様で安全表彰を受ける機会があって何百人もの前で表彰を受けたり、ご挨拶をさせてもらったりと色々な経験をさせてもらいました」。あたたかくも厳しく見守ってくれた光海元代表取締役は2012年に他界。遺影は社長室に飾られ、今も見守っていてくれているようだ。

営業スタッフを置かずとも 職人の技術力の高さが営業になる

同社では営業職を置いていないが、継続して受注が入ってくるのは職人の技術力のおかげと社長はいう。「現場では臨機応変な対応を求められることがあります。例えば、寸法がちよっと違う部材があって図面通りに作業ができない場合、新しい部材が届くまで作業を中断させるのではなく、今までの経験知で対応しています。職人さんの技術が高いからこそ、次の仕事へとつながっています。昨今、若い人達へ職人の技術を伝えるために詳しい説明書を作ろうという流れもありますが、分厚い説明書を読めば技術が身につくかというところではありません。職人の技術力を次世代へ確実に受け継いでいけるように、きめ細かな人材教育にもっと力を入れたいですし、もっとこの仕事を魅力ある仕事にしていきたい。人間の生活に欠かせない衣食住の住を支える大切な仕事です。この仕事の魅力も伝えていきたいです。また、今後は技術力の高い職人を関東へ派遣するなど関西での実績やノウハウをもって他府県や関東進出も目指しています。」と語ってくれた。



職長を中心にきめ細かな人材教育を実施。職人の技術を継承している

渥美建設株式会社 代表取締役 渥美 光仁

〒550-0012
大阪市西区立売堀5丁目6番5号
TEL: 06-6541-2208
FAX: 06-6534-5034
http://www.osakaatsumi.co.jp



【事業概要】建設工事及び建物解体工事並びに土木事業、とび・土木事業